



## ファイナルレポート

国際電子部品・アセンブリ・マテリアル専門見本市  
 国際電子部品製造技術専門見本市  
 2026年4月8日～10日

2026年4月15日

# electronica India 2026 と productronica India 2026 は、 インドのエレクトロニクス・マニュファクチャリング分野の競争力を一段と高めた

多数のバイヤーが来場、活発な商談、そして世界中からの幅広い参加が今回のグレーター・ノイダ開催を特徴づけた

### Summary

- 来場状況: 主要バイヤーや調達決裁者を含む 20,922 人が来場
- 商談状況: 現地化、サプライヤー探索、サプライチェーン連携を主眼とした 1,500 件超のバイヤー・サプライヤー商談
- 主な参加国: ドイツ、中国、日本、台湾、米国など世界各国から幅広い参加



### Facts & Data

会 期	2026年4月8日(水)～10日(金) 10時～18時(最終日17時)
会 場	インドエキスポセンター・グレーターノイダ India Expo Centre & Mart (IEML)
主 催	Messe Muenchen India Pvt. Ltd. - メッセ・ミュンヘン・インド
出 展 規 模	(2025年: 60,000 m <sup>2</sup> )
出 展 企 業	1,000社(2025年50カ国以上から6,000ブランド)
来 場 者 総 数	20,922人(2025年50,194人)
併催 プログラム	Buyer-Seller Forum 他
主 な 出 展 品	<p>&lt;electronica India&gt;: 半導体、センサー、リレー・スイッチ・配線技術、受動部品、モーター・駆動部、ケーブル、アセンブリ・サブシステム、ED/EDA、検査・測定技術、ディスプレイ、電源装置</p> <p>&lt;productronica India&gt;: 電子部品製造、一般業務支援・製造サブシステム、PCB及びその他電気回路用製造装置及びロジスティック、ケーブル加工技術アセンブリ・モジュール・ハイブリッド用製造装置及びロジスティック、材料加工、パッケージング、製造関連サービス、はんだ付け技術</p>
専 用 U R L	<a href="http://www.electronica-india.com">www.electronica-india.com</a> / <a href="http://www.productronica-india.com">www.productronica-india.com</a>

## グレーター・ノイダ

インドがグレーター・ノイダを、世界的なエレクトロニクス・マニュファクチャリング拠点としての地位に押し上げようとする野心は、いまや工場現場、政策立案の場、そしてサプライチェーン再編が進む産業プラットフォームにおいて、より具体的な形で現れ始めている。

2026年4月8日から10日にグレーター・ノイダで同時開催された electronica India 2026 と productronica India 2026 は、インドのエレクトロニクス産業における構造変化を鮮明に示す場となった。世界各国のサプライヤー、国内メーカー、調達責任者が多数参加し、地政学的再編やコスト圧力に直面する業界にとって、本イベントは見本市の枠を超えて、実践的な取引の場として機能した。世界各国およびインドから1,000社を超えるサプライヤーとディストリビューターが展覧中、業界関係者20,922名が来場した。

ホスト州としての役割を担ったウッタル・プラデーシュ州政府は、electronica India 2026 と productronica India 2026 を支える上で重要な役割を果たした。同州とのパートナーシップは、政策支援、インフラ整備、投資誘致を背景に、強固なエレクトロニクス・マニュファクチャリング・エコシステムの構築に向けた継続的な取り組みを反映するものである。州政府の高官が出席し積極的に関与したことは、エレクトロニクス・マニュファクチャリングの有力な投資先としての地位を確立しようとする州の意図を示すとともに、業界関係者と政策担当者が現場でより緊密に連携する場を整えるという州の意図を明確に反映している。

こうした背景のもと、開会式には、ウッタル・プラデーシュ州財務・議会担当大臣の Suresh Kumar Khanna 氏、連邦政府のエレクトロニクス・IT および商工担当国务大臣 Jitin Prasada 氏をはじめ、政界および産業界の幅広いリーダーが出席した。さらに、産業開発大臣 Nand Gopal Gupta “Nandi” 氏、IT・エレクトロニクス大臣 Sunil Kumar Sharma 氏、科学技術・エレクトロニクス・IT 担当国务大臣 Ajit Singh Pal 氏、そして同州 IT・エレクトロニクス局プリンシパル・セクレタリー Alok Kumar 氏も出席した。

## 方向性を伴う成長

グレーター・ノイダとベンガルールの二つの開催地を通して、本見本市は現在、年間6万人超を集める規模へと拡大しており、これは従来比で約50%の規模拡大を反映するとともに、主要な産業交流拠点としての地位を一段と強固なものにしている。

とりわけ今回のグレーター・ノイダ開催では、ドイツ、中国、日本、台湾、米国といった製造業を牽引する国・地域からの出展が相次ぎ、インドがグローバル・バリューチェーンへの統合を一段と進めていることを示している。

さらに今回の開催期間中には、サプライヤー多様化、現地調達戦略、リードタイム最適化をテーマとする1,500件超の組織的かつ対面型のB2B商談が行われ、企業が特定のサプライヤーや地域への依存度を見直す中、サプライヤー多様化、現地調達戦略、リードタイム最適化というテーマが経営課題の最上位に浮上していることが明らかになった。

今回の開催では、能力強化に明確な重点が置かれ、部品製造、オートメーション、サプライチェーンの強靱化に対する出展各社の関心の高さが窺えた。とりわけ自動車や民生用電子機器といった分野のバイヤーは、短期的な調達ではなく長期的なパートナーシップを視野に、国内サプライヤーを評価する姿が見られた。

見本市と並行して開催された一連のカンファレンスでは、事業政策、サプライチェーン強靱化、自動車用エレクトロニクス、PCB製造、先端生産技術など、業界の現在の優先課題に即したテーマについて、より踏み込んだ議論が行われた。これらのテーマは、「UP Electronics Leadership Summit」、ELCINA(インド電子産業協会)主催の「Supply Chain Summit」、ICEA(インド電子産業協会)主催の「Automotive Display Conference」、「Bharat PCB Tech Conference」、「SMT Thought Leadership Summit」といった各種フォーラムで取り上げられた。

今回の開催ではイノベーションにも重点が置かれ、ウツタル・プラデーシュ州政府が支援するスタートアップ・パビリオンや、業界向けに企画された音声番組(ポッドキャスト)が展開された。特筆すべき動きは、ELCINA とメッセ・ミュンヘン・インディアとの協働による、プリント回路と実装に特化したプラットフォーム「BPCA」の立ち上げである。

また、ELCINA や ICEA といった業界団体も積極的に参画し、カンファレンスでの議論に加え、非公開の業界関係者との意見交換にも貢献した。

ELCINA 事務総長 Rajoo Goel 氏は、「electronica India 2026 と productronica India 2026 における議論は、業界の優先課題に明確な変化が生じていることを示している。ローカライゼーションは政策意図の段階を超え、いまや事業上の必須要件となりつつある。このプラットフォームはバリューチェーンの各関係者を一堂に集め、部品産業の製造基盤の強化や外部依存の低減に向けた実践的な議論を可能とした」と述べている。

そして、ICEA 会長 Pankaj Mohindroo 氏は、「今回特に際立っていたのは、インドのエレクトロニクス・エコシステムが着実に成熟度を高めている点である。政策の方向性、業界の投資、サプライチェーン戦略が、これまで以上に強く連動しつつあり、こうした整合性は持続可能なスケールを実現する上で不可欠である。electronica India 2026 と productronica India 2026 は、長期的な視野と戦略的意図をもって事業拡大を進めるインド企業と、世界の技術・コンポーネント関連サプライヤーとの間で、有意義かつ直接的な交流を可能にすることによって、この勢いをさらに加速させる重要な役割を果たした」と述べている。

#### 今後の展望

第2回となる「electronica India」および「productronica India 2026」は、2026年9月16日から18日までベンガルールで開催予定であり、本プラットフォームはインドの主要電子機器製造拠点の一つへと展開を拡大する。

地政学のおよび経済的变化を背景に、業界は再編の局面にあり、こうしたプラットフォームの役割は今後一層重要性を増すと見られる。もはや焦点は、インドがグローバル電子機器サプライチェーンの一翼を担うか否かではなく、どの程度の規模と影響力を持つ役割を担うかに移行している。

#### electronica India 2026 主な日系出展社(50音順)

旭計器(株)、YITOA マイクロテクノロジー(株)、SMK(株)、新電元工業(株)、(株)東邦鋼機製作所、日置電機(株)、(株)日立ハイテク、(株)Fact Base 他

#### productronica India 2026 主な日系出展社(50音順)

(株)キーエンス、協立電機(株)、(株)スリーボンド、双日(株)、パナソニック(株)、富士フイルム(株)三菱電機(株)、ヤマハ発動機(株) 他

見本市の詳細情報は、専用ホームページをご参照ください:

electronica India: [www.electronica-india.com](http://www.electronica-india.com)

productronica India: [www.productronica-india.com](http://www.productronica-india.com)

#### 資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアズアーク虎ノ門 5階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: [info@messe-muenchen.jp](mailto:info@messe-muenchen.jp)

URL: [www.messe-muenchen.jp](http://www.messe-muenchen.jp) (日本語) [www.messe-muenchen.de](http://www.messe-muenchen.de) (英語/ドイツ語)